

VTuberさらにはAITuberまで
仮想空間のアバターをめぐる法的論点を概観

サイバネティック・アバターの法律問題

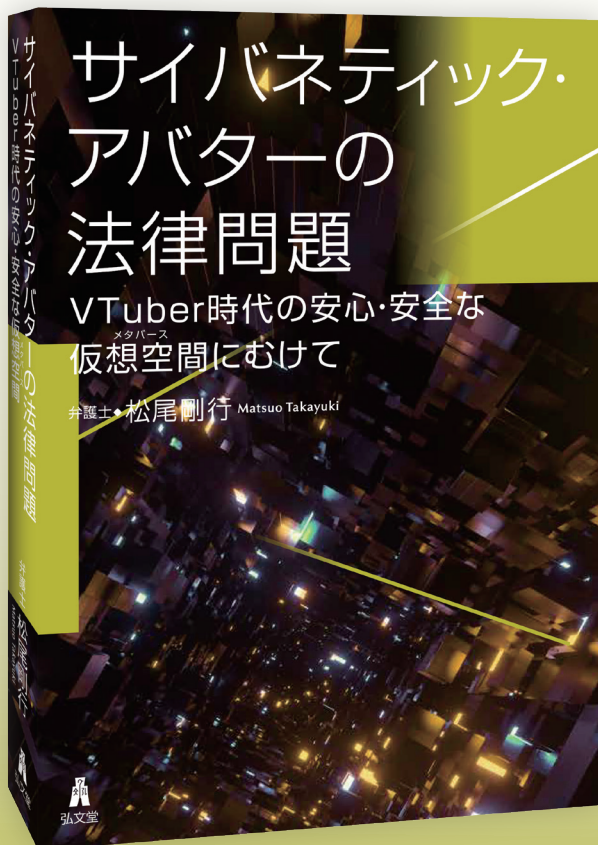
VTuber時代の安心・安全な
メタバース
仮想空間にむけて

松尾剛行 [著]

弁護士(第一東京弁護士会)、ニューヨーク州弁護士。桃尾・松尾・難波法律事務所パートナー、AI・契約レビューテクノロジー協会代表理事。ITストラテジスト試験、情報セキュリティスペシャリスト試験、プロジェクトマネージャ試験合格。学習院大学特別客員教授、慶應義塾大学特任准教授のほか、中央大学非常勤講師、一橋大学客員研究員なども務める。

2024年
12月25日
発売

A5判ソフトカバー 264ページ
定価(本体3,000円+税)
ISBN 978-4-335-36014-5



アバター社会において出現しうる諸問題が現行法や実務でどのように評価され、それがどのような課題を生むのかという問題意識から、人格権、個人情報保護、知的財産権をはじめ、プラットフォーム等の代表的な個別問題や民事法および刑事法の論点に至るまで、「アバター法(CA法)」の枠組みのもと、これからの議論の足がかりを提供します。とりわけ、誹謗中傷や名誉毀損、「中の人」との関係、下請法違反などをめぐって議論が沸騰するVTuberさらにはAITuberに関する解説は、関係者必見。

目次

第1編 総論	第3編 知的財産権
第1章 〈CAと法〉概観・その1 —人格権を中心に—	第9章 CAと著作権 —著作権による保護と侵害の回避—
第2章 〈CAと法〉概観・その2 —知的財産権を中心に—	第10章 CAと意匠権、商標権、不競法等
第2編 人格権	第4編 その他の問題
第3章 CA裁判例の総合的検討 —名誉毀損・名誉感情侵害を中心に—	—民事・刑事・行政・プラットフォーム—
第4章 CAと個人情報 —ケースに基づく分析—	第11章 民事・刑事上の問題
第5章 CAとプライバシー —三段階の展開・転回を踏まえて—	第12章 行政規制・プラットフォーム
第6章 CAと肖像権 —利用パターンごとの分析—	第5編 応用問題
第7章 CAとパブリシティ権 —場合分けによる整理—	第13章 CAと消費者法
第8章 CAとなりすまし —氏名権、アイデンティティ権等—	第14章 AIとCA—AITuberを中心に—
	第15章 CAと労働法
	終章 アバター法(CA法)の成立可能性 と残課題
	[事項索引] / [判例索引]